

町田通勤寮だより

NO 62

2017年 3月

社会福祉法人つるかわ学園 町田通勤寮

〒194-0045

東京都町田市南成瀬1-5-3

電話 042 (739) 0491

巻頭言

ありきたりではありませんが3月は「出会いと別れ」の季節です。支援学校を卒業してすぐに通勤寮に入寮する方の割合が高いため、年度末に「退寮(地域移行)」する方が多くなります。今年は5人の方が3月中旬に退寮します。それぞれが、自分なりの新たな生活の一步を踏み出していく事を願っています。

また、新たに通勤寮に入寮する方が10人ほど予定されています。それぞれの2年後の「目標」に向かって着実に歩んでいくためのお手伝いができればと考えています。

さて、2月9日〜10日と福島県いわき市で開催された、関東地区宿泊型自立訓練事業等(旧通勤寮)職員研究大会に参加してまいりました。参加者は12事業所から、講師や事例報告の方を含め23名でした。

1日目

- ・全国事務局報告
- ・事例報告(いわき・障害福祉サービス事業所 はまゆう)

・各事業所の状況報告

2日目

- ・講演1「地域移行と宿泊型自立訓練の可能性」
(福島県障害福祉サービス基盤整備事業
精神科病院転退院支援コーディネーター 武田牧子氏)
- ・講演2「進まぬ地域移行の現状と課題」
(いわき福音協会 事業部長 本田隆光氏)

研修会を通じてまず感じたのは、3・11の震災・原発事故からの復旧がなかなか進んでおらず、その影響が大きく残っているということでした。(私も福島の出身ですので、年に一度は帰省しますが同じ思いです。)様々な課題を抱えた利用者さんと向き合い、支援をしていることへの「通勤寮」としての『こだわり』も感じました。通勤寮だからできること、通勤寮にしかできないこと、「町田通勤寮」として、もう一度考え、実践していきたいと思えます。

今年も「第三者評価」の報告が届きました。毎年受審しており、高い評価を受けている部分もありますが、様々な課題も指摘されています。なかなか改善が進んでいない部分もありますが、常に自らの支援を振り返り、より質の高い支援を目指して諸課題に取り組んでいきたいと思えます。

地域支援分科会研修(東京都社会福祉協議会)

東京都GH連運営協議会研修

今回は「愛着障害の理解と基本的な対応について」というテーマのもと、大田通勤寮での勤務を始め、教育相談専門員など臨床心理士として様々な取り組みを行っている高木和弘氏をお迎えし、講義を行いました。愛着障害という言葉の概念のみならず、日々通勤寮という機能の中での活動を通

サービス管理責任者・主任支援員 谷本 洋

しての高木氏の視点や思いを分かりやすく解説いただき、我々支援に携わる者としても非常に理解が深まる内容となりました。

講義の中では、愛着と一言で言っても様々な種類があり、それらの見分け方や、様々な具体的な対応方法などもご紹介いただくことが出来ました。あわせて、我々支援員が日々の支援の中での悩みや葛藤などに対して丁寧にお答えいただき、大変有意義な時間となりました。そういった作用もこの分科会の大きな目的の一つとなります。同じ通勤寮で支援をする仲間として共有の悩みや苦悩を抱えつつ、このような機会に意見交換をすることにより、それぞれの事業所で適切かつ前向きな支援が展開されることを望み、今後も様々な学習会の立案を進めていきたいと思っております。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

東京都知的障害者グループホーム運営協議会主催の、今年度第2回目の世話人養成研修では、就業3年以上の世話人を対象とし、テーマ別の少数グループで、事例を基にディスカッションを行うことにより、世話人としての資質向上と専門職性の再確認につなげることを目的としました。

テーマは①自閉症②ダウン症③高齢障害者④単身生活⑤行動障害⑥罪を犯す知的障害者⑦就労と金銭⑧虐待の8つに分かれ議論を展開しました。谷本も毎年事例提供及びファシリテーターとして参加し、これまでの自身の経験から、参考となる事例を提示すると共に、それに対して行われた支援について多くの世話人の皆様と意見を交わすことで、世話人資質向上のみならず、私自身にとっても様々な角度から自分の取り組みを認知・再検証し、今後の支援に生かすことが出来る、非常に有意義な機会となります。

今回提供いたしました事例において(あえてどのテーマの事例かは伏せますが…)は、第一印象としては、ほとんどの世話人の皆様が「これほどのケースは自分では無理」と驚かれています。討議を進め、事例をより深く掘り下げていくことで印象も変化し、「自分が支援するならばこう

する」「ここをこうすれば伸びるのでは」等、前向きな意見が多く寄せられたこととなりました。私谷本が最近よく使用する言葉として「多種多様」というキーワードがあります。時代の流れにより、利用者のニーズが「多種多様」となり、我々支援員もそれらに対応出来るスキルを磨いていかなければならない。それこそ「多種多様」な支援の視点を持つて取り組むことで、変化し続ける様々なニーズに対応することが出来ます。

世話人という仕事はよく「孤独」であると言われる。私自身もこれまで幾度となく現場で苦悩される世話人の悩みに耳を傾けてきましたが、このように多様な考え方を吸収することにより、少しでも世話人の心のサポートとなれるよう、またそれが現場での良き支援へとつながるよう、自身の感性も磨きつつ今後も努力してまいります。

多摩南部就労支援連絡会学習会

主任支援員 武智 里峰

今回の学習会では、株式会社いなげやウイングの石川誠氏をお招きし、「支援者側の合理的配慮」についてお話しいただきました。

同社の障害者の雇用、全体数：279名(身体：52名、知的：137名、精神：90名)。雇用が多いのは、店舗(青果・鮮魚・ベーカリー・清掃等)が236名、物流センター9名、農業8名、本社26名の配属となっています。課題として、重度障害者の雇用が少ない点、事務職が本社にしか配属されていない点が挙げられますが、療育手帳2度の方でも早朝の品出しを行う等、少しずつではあるが、クリアすべく努力を続けておられるそうです。

特別支援学校卒業生の退職はまだないそうですが、障害者差別解消法施行に合わせ、支援校で「合理的配慮」の提供が行われているからではないかと石川氏は推察されていました。また合理的配慮は、従業員が企業から受けられる権利ではあるが、報酬を受ける一方で忠実に業務を遂行する義務も生じるということが第一と強調されていました。一番のポイントは

「相互理解」であり、障害者と雇用主の協議が不可欠。どちらかが一方的に用意するのではなく、この関係性が双方のコミュニケーションを深め、就労継続に反映されているのではないかと、石川氏は考察しておられました。

講義の後のグループワークで、実際現場であったことを事例に話し合いました。「合理的配慮」が本社（人事部等）には周知されているが、現場で働く従業員に細かい部分まで浸透していないことで起きてしまったトラブルも多いのが現状だと感じました。

通勤寮でも「合理的配慮」を書面で取り決め就労している方は、まだわずかです。各関係機関がより「合理的配慮」を理解し広めていくことで、会社・障害者・関係機関との連携・より良い信頼関係が生まれてくるのではないかと感じました。

29 スピーチフォーラム実行委員会

防災講座 横浜市民防災センター見学

支援員 入江 就仁
もとあき

来年度のスピーチフォーラム開催を控え、2月5日（日）町田通勤寮にて利用者実行委員会が開かれました。今年度のスピーチフォーラムは11月11日（土）・12日（日）の2日間、東京都で開催されます。スピーチフォーラムとは何ですかとよく聞かれますが、改めてご説明いたします。スピーチフォーラムは通勤寮利用者の大集会というイメージをしていただければと思います。利用者が今、それぞれ抱えている問題やテーマについて提案し、自分達は何をすべきか。自分達はこうあるべき。そのような発信の場として開催されたのがスピーチフォーラムの発足理由です。

今年度は東京大会ということもあり、東京都の各通勤寮（大田・江東・

立川・豊島・葛飾・町田）利用者実行委員が集まり、スピーチフォーラムの意義・開催テーマ等を意見交換しました。

利用者方での意見交換では、自己紹介も兼ねて各通勤寮で検討してきた開催テーマを発表、同時にプレゼンテーションも行いました。実行委員の皆様も緊張されており、なかなか意見が出なかつた時間もありましたが、テーマを決める上では「〇〇が良いと思います」「私はこう思います」と言った自己主張ができたこともあり、無事テーマを決める事ができました。

開催テーマ「自立のために何をすべきか、仲間の輪を広げるために」

毎年スピーチフォーラムの本題となる分科会のテーマについても各通勤寮が検討してきたテーマをそれぞれ出し、意見交換しました。ただ、分科会については各通勤寮それぞれの思いや実行委員の考えもあり、結論には至らず、次回実行委員会開催までの宿題となりました。次回の利用者実行委員会開催は4月を予定しています。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

2月25日（日）横浜市民防災センターで防災講座が行われました。講座を通し、防災・減災意識を高めることを目的としています。

前年までは立川防災館に行っていました。今年度は横浜市民防災センターを見学しました。同センターは、インストラクターの説明を受けながら災害シミュレーションや地震体験等のツアーを約1時間かけてまわります。まず災害シミュレーションで、現在の横浜市の地形、特徴、地震が発生した際の想定被害等、これから起こりうる現実問題を肌で感じる事ができました。利用者の方は皆、集中して上映を見ており、特に巨大地震によって停電、液状化、土砂災害等様々な災害が起き、帰宅困難者が約45万人と想定されることを知ると「こんなにも出るのか」「うーん」と不安を抱く方もいらっしゃいました。その為、インストラクターからは「地震がすぐに起きても対応

できるだけ常に備えておく必要があります」とアドバイスがありました。次に地震体験。立川防災館でも同様の体験をされた利用者もいましたが、震度3〜7、6年前に発生した東日本大震災での地震の揺れを改めて感じ、実際体験した利用者の方は口をそろえて「こんな思い、したくないです」と答えていました。また、歩道やビルの高層階に滞在している場面を想定した体験も行うことができ、地震大国である日本の現状を感じることもとなりました。

最後に火災シミュレーター・減災トレーニングルーム体験を行いました。火災シミュレーターは消火器を使用し、初期消火等の体験ができるものであり、インストラクターから消火器の使い方や実際、火災が起きた際の避難のポイント等、分かりやすい説明がありました。また、減災トレーニングルームでは、一般家庭の部屋を模した約16畳の個室に入り、室内で地震や自然災害が起きた場合にまず何をすべきか、次に、減災のためどのように行動すべきかを体験できるプログラムとなっています。利用者の方も興味津々で体験中、右往左往している方がほとんどであり、どのように行動すべきか迷っている方が多く見受けられました。体験を終えた後に職員から避難方法の説明を受けると「こういう感じで行動するのか」と理解され、利用者同士で会話をしている所がとても印象的でした。

このように約1時間の体験を終えて講座は終了となりましたが、利用者の方も皆、今後いつか訪れる巨大地震発生の現実を肌で感じる事ができ、貴重な一日になりました。「備えあれば憂いなし」という言葉をよく耳にするとありますが、各家庭においても今一度、必要なものはそろっているか、災害が起きた際に自分はどう行動すべきか、考えることが必要である

と感じた防災講座でした。



迫力満点の防災シアター



減災トレーニングの講評中



震度7を体験しました



昔のポンプ車がお出迎え

新年・成人を祝う会

1月22日、通勤寮内の食堂・集会室にて新年会及び成人を祝う会が開催されました。今年度は利用者さん、保護者や各関係機関の皆様、職員あわせて52名の参加となり、賑やかで和気藹々とした雰囲気の中、新成人となった男性1名、女性2名の利用者さんを皆でお祝いしました。

支援員 新井 政暁

12時半、スーツ姿の利用者さんが揃い、会は始まりました。つるかわけ学園廣本理事長、三階寮長の挨拶の後、自治会会長である利用者さんの乾杯の音頭があり、豪華なメニューの会食へと会は進んでいきました。調理の方々が朝から心を込めて作って下さったメニューを始め、デリバリーの寿司やピザなどを、和やかであたたかい雰囲気の中、皆でいただきました。

13時からの成人祝賀会では、新成人の利用者さんがそれぞれ、いっぴくなく凛々しい表情で、二十歳を迎えるの抱負などを述べておられました。そして会はずるかわけ学園丸山施設長からのお祝いの言葉、記念品贈呈、ピ
ンゴ大会などを経て、盛況のままお開きとなりました。

改めて、新成人の皆さん、ご成人おめでとうございます。これからは大人としての責任ある行動を周囲から求められ、また期待されることと思
います。自分の言動に自覚を持ち、心の優しさと芯の強さをこれからも忘れ
ず、皆さん自身の手であたたかく素敵な人生を切り開いていってほしいと
願っております。



祝辞を述べる三階寮長



新成人へ記念品を贈呈



紹介をうける新成人の3名



保護者代表のご挨拶

調理実習・今年度の栄養指導をふりかえって

栄養士・調理員 遠藤 小百合

2月19日(日)に調理実習を行いました。皆さまは巻きすを使って「のり巻き」を作ったことがおありでしょうか。通勤寮では毎年2月に恵方巻きを巻きすを使って作ります。是非それを体験していただきたく、今回献立に取り
入れました。他には具だくさんのけんちん汁、フライパンで作る焼き魚、簡
単きんつばの4品を手掛けました。

今回、参加してくれた利用者さんはのり巻き未経験者ではなかったのです
が、久しぶりの巻きすに少し手間取った様子でした。でもコツをつかむとし
っかりきれいに巻くことが出来るようになり、ご本人も満足そうでした。焼
き魚はフライパンにクッキングシートを敷くだけで美味しく焼き色のつ
いた焼き魚が出来上がります。洗う時も汚れがこびりついていないので楽に
洗うことが出来ます。

簡単きんつばは白玉粉の衣をフライパンに広げその上にあんこをのせ更に
衣をかけてあんこをサンドし両面を焼きます。もちっとした食感のきんつば

が出来上がりました。ご苦勞様でした。

来年度も2ヶ月に一度食堂を利用して調理実習を予定しております。みなさんが自炊をする時に役に立つような料理を作りますのでお誘い合わせのうえ是非ご参加下さい。次回は4月16日(日)10:30より実施予定です。



フライパンで焼き魚に挑戦!



美味しくできました

☆☆☆☆

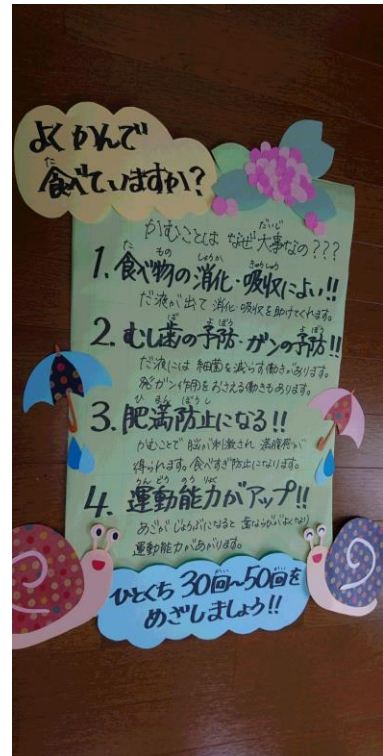
いつも食堂を利用して下さって、ありがとうございます。

調理では、今年度より「食」に関する利用者さんへのアプローチとして、食堂の掲示板の活用を思い立ち、いくつかのパネルを作成しました。普段の食事を、ただ食べるだけではなく、どうかのパネルを作成しました。普段の食事を、ただ食べるだけではなく、どうかのパネルを作成しました。普段の食事を、ただ食べるだけではなく、どうかのパネルを作成しました。



4月のオリエンテーションで「朝ごはんの大切さ」についてお話した時

のパネルです。一日の始まりに必要な「朝ごはん」。みなさんにしっかりと朝ごはんを食べてもらいたいという思いをこめて作りしました。



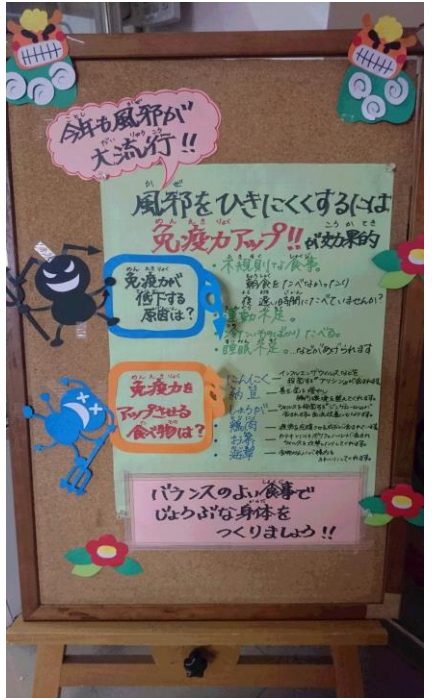
「かむことの大切さ」についてまとめたパネルです。

食事にかける時間があまりにも早い方が多いことに気が付いて作りしました。ひとくち30回以上かんで食べましょう。



ドレッシングやマヨネーズ、マーガリンの減り方があまりにも早く、注意喚起したくて作りしました。

調味料をかける時は、普段から少なめを心がけましょう。



毎年冬になると体調を崩す方が急増します。免疫力を上げれば防げることに気付いていただきたいと思います。規則正しい生活を送り、バランスの良い食事をとるように気を付けましょう。

食事は生活の中で欠かせない大切な時間です。それを少しでも伝えられるように、来年度もまた新たな取り組みをしていこうと考えています。

今後の主な予定

- 3月19日(日)地域生活講座(グループホーム見学会)
- 3月26日(日)利用者自治会役員会(来年度役員選挙準備)
- 4月2日(日)ハウススキーピング(各居室一斉清掃日)
- 4月9日(日)オリエンテーション・BBQ
- 4月20日(日)自治会役員選挙
- 5月7日(日)ハウススキーピング
- 5月14日(日)保護者会13..45(町田通勤寮集会室)
- 5月27日(土)東京都障害者スポーツ大会(卓球・ボウリング・陸上)
- 5月28日(日)東京都障害者スポーツ大会(陸上)

◆町田通勤寮だよりのバックナンバーはつるかかわ学園公式HPよりご覧になれます。

(<http://tsuruuagaku.sakura.ne.jp/wp01/jigyosho/tsukinryoyoridayori/>)